

達しており、西は東北地方の脊梁を形成する奥羽山脈であり、山ろくは広く第三紀層及び火山性岩石からなっている。

丘陵地としては、北上山地と奥羽山脈の間に第三紀層からなる仙北丘陵地帯があり、低地帯としては大崎平野と北上川流域を中心とする仙北低地帯及び仙台平野を中心とする仙南低地帯があり、いずれも第四紀層の堆積平地である。

河川としては、二県にまたがる大河川として北上川、阿武隈川の両川があり、仙北及び仙南各低地を流域としている。また、その他の主要河川として、仙北低地帯では鳴瀬川及び北上川支流の迫川、江合川等があり、仙南低地帯では七北田川、広瀬川、名取川及び阿武隈川支流の白石川等がある。

これらの地形と地質を基として、大川・鹿折川水系地下水盆、七北田川水系地下水盆、名取川水系地下水盆、北上川水系地下水盆（迫川水系地下水盆、江合川水系地下水盆、北上川水系臨海地下水盆の3地下水盆に区分）及び阿武隈川水系地下水盆（阿武隈川水系内陸地下水盆、阿武隈川水系臨海地下水盆の2地下水盆に区分）合わせて8地下水盆を設定する。

地上水盆区分図

